

1 算数について

全国と松山市の調査結果を比較すると、全体的には全国平均とほぼ同じ状況でした。学習指導要領に示されている「数と計算」「変化と関係」「データの活用」「図形」の4領域とも全国平均とほぼ同じ状況でした。評価の観点では、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、全国平均とほぼ同じ状況でした。問題形式別では、「記述式」は全国平均をやや上回り、「短答式」「選択式」は全国平均とほぼ同じ状況でした。

2 分析結果から特徴が見られた問題

3(2) 正答例 $(1.4 + 1.6 + 2) \times 23 = 115$
 1 入れることができる
 全国の正答率 56.7%
 松山市の正答率
 「全国の正答率を大きく上回る」

② けんたさんの学校では、1人が3種類のファイルを1冊ずつ使うことになりました。それぞれのファイルの厚さは、1.4cm、1.6cm、2cmです。けんたさんの学校の人数は23人です。下のようにはば120cmのたなに、ファイルを全部並べて入れることができるかどうかを考えています。



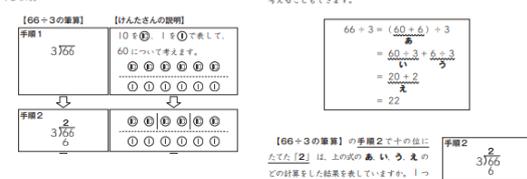
3種類のファイル23人分を全部並べた長さは、何cmですか。全部並べた長さの家の方を、式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。さらに、たなにファイルを全部並べて入れることができるかどうかを、下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

1 入れることができる。
 2 入れることができない。

3(4)正答 い
 全国の正答率 47.6%
 松山市の正答率
 「全国の正答率をやや下回る」

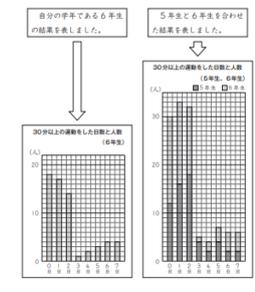
④ けんたさんは、 $66 \div 3$ の筆算について、次のように図を使ってふり返りました。

【けんたさんの説明】をもとにすると、 $66 \div 3$ の計算を、下のようになります。



【66÷3の筆算】の手順2で上の枠にたてた【2】は、上の式のあいうえのの計算をした結果を表しています。1つ選んで、その記号を書きましょう。

4(3) 正答 次の①②の全てを書いている。
 ① 6年生のグラフでは2番目に多いことを表す言葉と数
 ② 5年生と6年生を合わせたグラフでは、1番目に多いことを表す言葉と数
 全国の正答率 56.2%
 松山市の正答率
 「全国の正答率を大きく上回る」



自分の学年である本日の結果を表しました。5年生と6年生を合わせた結果を表しました。

30人以上の人数になった日数(6年生)

30人以上の人数になった日数(5年生、6年生)

【1日】についてまとめたことと同じように、「1日」に着目してまとめることで、このようになります。

下の【あいうえの】の中に、「6年生のグラフ」「5年生と6年生を合わせたグラフ」の3つの言葉と数を使って書きましょう。

3 考察

3(2)は、示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかをみる問題です。正答率が全国平均を大きく上回っています。ファイル3種類の23人分の長さを求め、はば120cmのたなに入れることができると判断することが必要です。

3(4)は、(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題です。正答率が全国平均をやや下回っています。分配法則と筆算の関係性を読み取り、正確に計算する手順を身に付ける必要があります。

4(3)は、示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。「1日」の人数に着目して、二つのグラフから人数の多い順について違いがあることを読み取り、それぞれのグラフから「1日」の人数の多さが何番目であるかを記述する必要があります。

4 これからの学習にあたって

日常生活の事象を数理的に捉え、式に表現して処理したり、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫したりすることが重要です。また、目的に応じた適切な分類整理の仕方やグラフの表し方を判断し、データの特徴や傾向に着目して考察することも重要です。記述式問題において、全国平均を上回っていました。日頃より、疑問に思った課題に対して数学的に考察する力を身に付けていくことで更なる成果が期待できます。